論　　　文

日本音響学会誌投稿用原稿フォーマット\*

編集太郎\*1　　　音響次郎\*2, †

　[要旨]　このテンプレートは日本音響学会誌に論文等を投稿する際にご利用いただくためのものです。初回投稿時および査読後の修正原稿の提出に使うことを目的に，A4判であることを除いては（実際の学会誌はB5判）字数などが最終的な刷り上りに近いようになっております。採録可となった後の，印刷用最終原稿提出は別の書式であることにご注意ください（投稿規定参照）。このテンプレートを利用していただくことにより，おおよその刷り上りページ数が予測できます。なお，最終的な刷り上りとは誤差が出ることをご承知下さい。このフォーマットをご利用前に投稿規定を必ずお読み下さい。この要旨は段抜き1行当り48文字です。

　キーワード 　日本音響学会誌，原稿，フォーマット，査読，印刷

　Journal of Acoustical Society of Japan, Manuscript, Format, Review, Printing

1. はじめに

このたびは日本音響学会誌への投稿をご検討くださいましてありがとうございます。これは投稿用テンプレートです。初回投稿，査読後の修正原稿の提出にご利用下さい。査読が終了し，採録可となった後の印刷用最終原稿提出は別の書式であることにご注意下さい。また，このフォーマットによって作成した原稿はA4判であることを除けば，文字数などが刷り上りとほぼ等しくなるように設定されております。したがって，およその刷り上りページ数を見積もることが可能ですが，実際の印刷刷り上り原稿ではページ数に誤差が出る可能性があることを予めご了承下さい。また，図の配置なども印刷の都合で変わります。このフォーマットは査読過程のためのものであることをご了解の上，ご利用下さい。

1. 原稿作成上の注意

このフォーマットを利用する前に投稿規定[1,2]も必ずお読み下さい。ここでは，書式や原稿作成上の要点についてまとめます。また，実際の学会誌にすでに掲載されている論文もご覧になり書式を参考になさってください。なお，投稿時には原則としてpdfファイルに変換したものをアップロードしてください。

* 1. 題名と著者名

\* Template for The Journal of The Acoustical Society of Japan, by Taro Henshu and Jiro Onkyo.

\*1 ○×大学工学部

\*2 △□大学大学院音響学研究科

†現在，㈱＊＊音響部門

（問合先：編集太郎　〒000-0000　千代田区一番町＊＊）

和文題名はできるだけ簡潔に40字以内が望ましいと考えられます。「○○○の研究　第○報」のような題名は避け，論文としての独立性にご留意ください。副題もできるだけ避けてください。また，略号は原則として使用しないで下さい。当該分野で十分認知されるに至っていない用語や「新～」のような主観的表現の使用も避けるべきです。

投稿原稿の著者名は個人名とし，団体名等の使用は認めません。また，投稿後の著者名の変更は原則として認められないので，慎重を期してください。

左上に原稿の種別を記入してください。

* 1. 要旨

要旨は300字以内で，何を目的に，どのような手法で，何を行い，どのような結果が得られたのかを具体的にまとめてください。要旨では図や参考文献を引用できません。要旨のみで独立に存在しえるようにお書き下さい。寄書には要旨は必要ありません。

キーワードは５語くらいを選んでご記入下さい。

* 1. 本文

本文は2段組で，片段24字，47行です。

論文，技術報告などでは章の表題に通し番号をつけてください。脚注は使わないようにしてください。

数式と文字の使用については投稿規定をご覧下さい。

* 1. 図・写真と表

図や写真は図-1のようにこのフォーマット中に刷り上りに近い形を想定して，適当と思われる位置に貼り付けてください。図や表の説明は英語でも日本語でも結構です。

図・写真は原則として白黒印刷を行ないます。白黒印刷されても判別ができるような図を作成してください。どうしてもカラー印刷が必要な場合は別途カラー印刷費用を著者にご負担いただきます。

その他，図，表の作成については投稿規定の注意をお読み下さい。なお，いうまでもないことですが，一般の表作成ソフトなどの初期設定は必ずしも科学技術論文の図や表の作成には適していないことが多いので，縦軸，横軸の目盛り，文字の大きさやフォント，線やプロット点の種類や大きさの選択は十分吟味して行なってください。



図-1　図の例（図中の説明は英文でも和文でも可）

* 1. 参考文献

参考文献は論文等の中で重要な意味があります。十分に検討して参考文献リストを作成してください。書式は投稿規定を参照いただきたく思いますが，読者が実際に読むことができる文献を引用することが重要です。このことは，一般からはアクセスしにくいレポート，継続性が低いwebサイトなどの引用は避けたほうがよいことを意味しております。しかしながら，先行研究のプライオリティを重視するためにこのような文献や私信を引用することもあり得ると考えられます。ただし，その場合には読者が実際にその文献を読めないことを考えて，その内容を本文中に簡潔に示した上で引用することが必要です。

1. 査読について

査読は投稿規定付録の「査読について」にあるように，査読の基準に照らして投稿原稿が掲載可能かどうかを判断するもので，新規性，有効性，了解性などが判断の対象となります。学会誌に掲載される論文等は多少分野を異にする読者でも内容を理解できるように書かれていることが必要と考えます。したがって，新規性や有効性といった論文等の価値についても，先行研究等との差異を記述することで明確にする必要があります。すなわち，分野外の読者にもその研究の新規性と有効性の所在が明らかになるように書く必要があります。その上で，内容の信頼性や書式の体裁などが要求されます。

日本音響学会では，査読は2回までとなっており，1回目査読で示された採録の条件が修正原稿で満たされていないと判断された場合はいったん返戻となります。この場合は，十分修正の上，再投稿をしていただくことになります。再投稿の際には初回投稿時の受付番号を付記することができ，初回投稿時とある程度継続性をもった査読過程を編集委員会で設定することが可能なようになっております。内容的に価値のある原稿でも大幅な修正が必要と考えられる場合にはいったん返戻とすることもありますので，返戻は研究内容の価値を必ずしも否定するものではないことをご理解ください。査読は論文の書き方の指導を行なうものではなく，論理展開などが査読基準を満たすかを判断するもので，それを満たす原稿は積極的に採録したいと編集委員会では考えております。論文の真の価値は学会誌に掲載された上で読者が判断するものであるといえます。

なお，査読に関しては44巻1号（1988）の小特集「学会誌の在り方」に解説[3]があります。この解説は30年以上前のものであるので，投稿論文の流れや細かい判断基準に関しては現在と多少異なる部分もありますが，基本的な精神は変化していないと考えられます。また，システム論文の考え方については文献[4][5]をご参照下さい。

1. まとめ

この投稿フォームを利用することで論文等の作成・投稿が容易になり，さらに査読過程も円滑に進み，優れた研究内容がより早く学会誌上に現れるようになることを編集委員会では願っております。このフォームの改善に関するご意見がありましたらぜひ学会事務局までお知らせ下さい。

文　　献

1. 編集委員会, “投稿規定,” 日本音響学会誌, **78**(1) (2022).
2. 一般社団法人日本音響学会, “投稿規定,” https://acoustics.jp/journal/kitei/
3. 清水康敬, “投稿論文の流れと査読の考え方,” 日本音響学会誌, **44**(1), pp. 60-64 (1988).
4. 鈴木陽一, “日本音響学会誌の論文，AST誌のPaperの性格拡大について,” 日本音響学会誌, **61**(1), pp. 3-4 (2005).
5. M. Akagi, “Foreword to the special issue on Applied Systems,” *Acoust. Sci. & Tech*., **28**(3), p. 139 (2007).

英文アブストラクト　（英文アブストラクトはこのように本文の後にページを改めてください。最大200語です。）

Template for The Journal of The Acoustical Society of Japan

This template provides a format for those who are preparing their submission to The Journal of The Acoustical Society of Japan (JASJ). The number of pages can be approximately estimated using the template, but it does not always show the exact printing page. The template can be used for both the first submission and the revised one. However, please be noted that the final version for your manuscript should be prepared in accordance with the different format suitable for the printing process of ASJ. The English abstract shall not exceed 200 words.